

1. 今年度の取り組みと自己評価

(1) 教育活動への取り組みと自己評価

- ①授業を通じて、確かな学力と主体的に学びに向かう力を養う。
 - ・『分かりやすく工夫された授業』を目指し、ねらいの明示、導入の工夫、ICTの活用について、全教職員に取り組みさせた。
 - ・『適正で信頼される評価』に向けて、資料を作成・提示して校内研修を実施し、指導と評価の一体化と適切な評価材の設定を推進した。
 - ・『少人数指導の充実』に向けて、授業観察等を通じて習熟の程度等に応じた指導方法の工夫・改善を図った。
 - ・『振り返り活動の実施』について、生徒による授業の自己評価の実施を推奨した。
 - ・『学習習慣と家庭学習の推進』家庭学習の計画や宿題の出し方、質と量の工夫について検討した。
 - ・『基礎学力の定着』について、個別指導と補充的学習を充実させた。
 - ・『教科指導に関する研修の実施』若手を中心に校内での授業研究を実施し指導力の向上を図った。
- ②学校行事や体験活動を通じて、コミュニケーション能力や豊かな表現力を育成する。
 - ・『行事の重点化』について、体育祭、合唱コンクール等で生徒の主体的な活動を充実させた。
 - ・『生徒会活動の充実』について、生徒会朝礼、生徒総会、自治活動を充実させた。
- ③学校生活全体を通じて、自他を大切にす精神と正しい判断力を身に付けさせる。
 - ・『生命尊重と共生の視点』について、自他を大切にす精神の醸成を重視し、いじめや暴力行為、不登校問題についての予防的指導を行った。
 - ・『言語環境の適正化』を掲げ、生徒と教師双方で適切な言葉使いに留意するとともに、発出文書や教材のチェックを通じて文書表現等の改善を図った。

(2) 重点目標への取り組みと自己評価

- ・当たり前のことが当たり前でできる学校を目指すこととし、教職員に対して職務遂行の心構えとして『凡事徹底』を掲げた。
- ・教育活動のキーワードは『規律・学力・自己有用感』とし、以下の項目に取り組んだ。

【1】「人権感覚と規範意識の確立」に向けて

[1]生活指導

※人権と生徒の将来に配慮し、生徒とのコミュニケーションを重視、毅然とした指導と状況に応じた柔軟な対応を併用して以下の項目について取り組んだ。

※問題行動発生を未然に防ぐ予防的・開発的生活指導を充実させた。

- ①『基本的生活習慣の定着』挨拶や礼儀、言葉遣い、いじめや暴力の否定を重点的に指導した。
- ②『全校一致の生活指導の推進』全校共通の方針による指導と個に応じた丁寧な対応、事実の確

認と記録、確実な報連相による共通認識と組織的な指導を徹底した。

- ③『不登校生徒への柔軟な対応』定期的な連絡や居場所づくりを推進した。
- ④『事件・事故・苦情対応』事実確認と迅速な対応、確実な記録を組織的に行った。
- ⑤『外部機関等との連携』平時から情報共有し、必要な場合は躊躇せず支援を依頼した。

[2]人権教育

- ①『生命尊重と共生の視点』自他の尊重を重視し、いじめや不登校問題の予防的指導を行った。
- ②『言語環境の適正化』生徒と教師双方で言葉使い、文書表現等の改善を図った。

[3]道徳教育

- ①『道徳の時間の授業改善』「特別の教科」の趣旨を踏まえた計画的な指導を行った。
- ②『道徳授業地区公開講座の充実』保護者、地域との連携を継続実施した。
- ③『全教育活動を通じた意図的な実施』常に心を育てる意識で教育を推進した。

【2】「学びに向かう力の育成と基礎学力の定着」に向けて

[1]学習指導(前述)

[2]進路指導

- ①『三者面談の充実』保護者と連携した丁寧な指導・助言を心掛けた。
- ②『進路資料の工夫』生徒に主体的に進路を考えさせる指導を充実させた。
- ③『系統的な指導の推進』3年間を通じて段階的な指導を実施した。

[3]総合的な学習の時間

- ①『職業調べ・職場体験の充実』を通じて、望ましい職業観・勤労観を育成した。
- ②『キャリア教育の系統的指導』計画的な課題解決学習を推進した。

【3】「自己有用感の育成」に向けて…最重要項目とした。

[1]授業や特別活動・学校行事

※仲間に認められる体験を意図的・計画的に設定し自己有用感を育成した。

- ①『行事の重点化』体育祭、合唱コンクール等で生徒の主体的な活動を重視した。
- ②『生徒会活動の充実』生徒会朝礼、生徒総会、自治活動を充実させた。

[2]部活動(運動系・文化系共に)

※主体的な活動を通じて、努力して自分なりの目標を達成することを体験させた。

[3]特別支援教育

- ①『特別支援教室拠点校の取り組み』通常学級との連携を強化した。
- ②『成功体験の積み重ねを意識した指導』スモールステップによる指導を工夫した。
- ③『外部機関等との適切な連携』課題を抱え込まずに組織対応による解決を図った。

(3) 次年度以降の課題と対応策

- ・教職員に対しては引き続き『凡事徹底』を掲げ、組織の更なる安定化を進める。生徒指導では『自己有用感』の醸成を意識した教育活動をさらに浸透させ具体的な方策を増やす。その他日々の教育活動を通じて様々な課題を洗い出し、細かく改善を図り、教育活動を充実させる。